

まちのわだい

飲酒運転追放に町ぐるみ

巽町町内会が飲酒運転追放誓約書を提出

巽町町内会（清水民夫会長）は11月5日、町内会で初めて飲酒運転追放誓約書を久慈警察署（藤原明署長）に提出しました。



藤原署長（右）に誓約書を手渡す清水会長（左）

署名活動のきっかけは久慈警察署職員による出前講座。酒類の提供者や同乗者への罰則など昨年9月から飲酒運転が厳罰化されたことを講座で再確認し、各世帯に飲酒運転の撲滅を呼び掛け、20日間かけて145人分の署名を集めました。

藤原署長は「管内では飲酒運転の事故や検挙者が後を絶たない。この活動が飲酒運転撲滅につながれば」と署名に感謝と期待を込めていました。



オープンした山根六郷写真美術館ラボ



「ほれへいれー」笑顔で楽しんだ輪投げ大会



写真美術館に飾られた数々の写真。その温かさに来館者も目を奪われます



つきたてホカホカのおもち。うれしいお振る舞いに来場者は笑顔で列を作りました

伝わる広がる温かさ

水車まつり・山根六郷写真美術館ラボ開館

11月2日、水車まつりが開催されました。会場の桂の水車広場には県内外から多くの人々が訪れ、豆腐田楽やうきぎなどの郷土料理に舌鼓。恒例のあわもちの振る舞いや輪投げ大会のほか、陸前高田市の生鹿踊りの特別上演も行われました。

この日、山根六郷写真美術館ラボがオープン。構想から10数年。ついに実現した美術館について山根六郷研究会の黒沼忠雄さんは「山根の素顔と奥深さを見せられる拠点が作りたかった。日本一小さな美術館かもしれないが実現できてうれしい」と感慨深い表情を浮かべていました。

八幡平市から団体で訪れた佐々木キミエさんは「水車まつりも楽しかったが、美術館でさらに山根全体の雰囲気が分かる。すてきな写真を見て、また山根に来たくなった」と山里の暮らしを伝える温かな写真にじっと見入っていました。

広報リポーターがまちの話題を紹介します！

盛大にお巡りさんが演奏会



盛大に開催されたコンサート

11月1日、アンバーホールで県警音楽隊演奏会（県警本部など主催）が開催されました。会場に詰め掛けた大勢の観客は迫力ある演奏と統率のとれたステージドリルに酔いしれていました。（生平隆リポーター）

不老泉に龍の顔がお目見え



龍の水口。皆さんかわいがってくださいね

このほど久慈溪流の不老泉の水口が龍の顔に変わりました。龍は大川目に伝わる昔話「大滝の主」をイメージ。小久慈焼による手作り、大川目まちづくり協議会事務局次長の三上昌明さんが製作したものです。（小倉利之リポーター）

ダメ!絶対!を再確認

久慈中学校で薬物乱用防止教室を開催



薬剤師から薬物の危険性を説明され真剣な表情で資料に目を通す生徒ら

薬物乱用防止教室（久慈ライオンズクラブ主催）は11月7日、久慈中学校（日沢利光校長・生徒497人）で開催。参加した3年生と保護者ら約160人は薬物が心と身体に及ぼす危険性や恐ろしさをあらためて学びました。教室には久慈保健所や久慈警察署の職員も講師として参加。薬物が心身に与える悪影響、厳しい罰則や取り締まりの内容など、それぞれの分野から薬物防止を強く訴えました。

教室では薬物に誘われる状況を想定した寸劇も実施。役を演じた小澤優さん（3年）は「この教室で薬物がだめなものだと再確認した。たとえ今後、どんな形で誘われても強い気持ちで断れる」と真っすぐな目で話していました。

生産拡大に期待大!

菌床しいたけブロック製造施設が落成

菌床しいたけブロックを製造する県内最大級の施設が11月14日、侍浜町に完成。同日、現地で落成式典が行われました。式典には事業主体である(有)越戸きのこ園の越戸俊男社長をはじめ生産者や市、県、JAなどの関係者約60人が出席。安全祈願や施設の説明を行った後、スイッチが押され無事に施設が稼動しました。

越戸社長は「この施設は生産者みんなのもの。効率的にブロックを製造し、地域のしいたけ生産量を拡大させたい」と決意を語っていました。

製造施設は国の補助事業。この施設により地域の木材を使ったブロック製造が可能に。生産者にも安価でブロックを提供できるようになることから地域のしいたけ生産量拡大が期待されます。



高庄殺菌室のスイッチを押して施設を初稼働させる越戸社長（左）と菅原和弘副市長

港の今と昔に興味津々

もぐらんぴあ・みなと発見隊を開催



スタッフの説明を受け厳島神社の歴史を学ぶ参加者

市民に港に親んでもらうため初めて企画された、もぐらんぴあ・みなと発見隊（もぐらんぴあなど主催）は11月3日、約20人が参加して開催されました。参加者は2隻の船で久慈港を巡り、現在建設中の湾口防波堤や牛島周辺を見学。侍浜町麦生にある市指定文化財の麦生砲台場や厳島神社ではスタッフからその歴史などの説明を受け、港の昔と今に理解を深めました。

石崎凖太郎くん（久慈小5年）は「海の上からだとまちが小さく見えた。船ではカモメに餌付けもできて楽しかった」と笑顔。一緒に参加した祖母の和子さん（川貫）は「孫のいい経験になればうれしい。また機会があれば参加したい」と港に興味津々の孫の姿に目を細めていました。

広報リポーターを引き続き募集します。皆さんもまちの話題を紹介してみませんか？詳しくは、まちづくり振興課（☎52-2116）へ。ご連絡お待ちしています。